JARAP NEWS
Japan Association for Rail Advertising Promotion
社団法人 全国鉄道広告振興協会 会報
創刊号
Vol.1
2006年2月20日発行

発行所：〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1丁目1番1号　ヒューマックス恵比寿ビル8階
社団法人 全国鉄道広告振興協会
TEL：03-5773-6789　FAX：03-3712-2399　URL：http://www.jarap.jp（3月1日開設予定）

鉄道広告業界に宿願の公益法人

「社団法人 全国鉄道広告振興協会」を設立

平成17年11月1日、30年来の念願であった社団法人全国鉄道広告振興協会が国土交通省の許可をいただき、このほど、設立の運びとなった。

【鉄道広告新法人の発足に当り】

あいさつ

社団法人全国鉄道広告振興協会
会長　岩﨑　雄一（いわさき　ゆういち）

平成17年11月1日に国土交通大臣から鉄道広告振興協会の社団法人化について許可をいただきました。媒体を保有するJR、民鉄各社の参加も得て全国の鉄道広告関係団体が大同団結することは業界年来の願望であり誠にご同慶に堪えません。行政改革推進さなかのきびしい状況のもとではありましたが必要性が認められ宿願が成就したことはひとえに国土交通省のご指導、関係各社のご協力、ご支援のたまものと感謝しております。

鉄道広告法人化の目的は、その運営において①倫理性、品位の保持②地域の美観風致との調和③安全管理等の公益的業務を中心に④人材の育成⑤先端情報の収集・共有化⑥新しい訴求技術の開発等に努め鉄道広告業の革新を図ることにあります。

幸い鉄道広告は各鉄軌道業者にとって効率的な収入源となっているとともに、広告情報が錯綜する中でとくに視認性の高い鉄道広告の訴求性に対する評価が高まりつつあります。ただ、鉄道広告に見られる過激な表現態様に対する社会的批判も根強くあり、過去2回にわたり国会で採り上げられたほか、日本弁護士会や東京都において「公共空間におけるマナーのあり方」について提言が行われています。これらは鉄道広告の持つ公共性の観点に基くもので、社会から倫理性、品位の保持に強い期待が寄せられていることに思いをいたし、その改善に努める必要があります。そのためには媒体社毎に異なる倫理綱領や広告掲出基準を吟味の上統一化し教育指導の徹底、審査体制の確立等により、補強する必要があります。地域の美観、風致との調和という課題についてもヨーロッパ等における事例に学び、さらに踏み込んだ努力が必要です。また安全管理についても鉄道広告の掲出、撤去は鉄道地内で行われるため列車障害等を防止する安全作業基準の制定などが急がれます。

このほか人材の育成、先端情報の収集、共有化、新しい訴求技術の開発など業界発展のための課題は山積しています。

今回の法人化を契機に心新たに課題に挑戦し鉄道広告の公益性の充実、近代化の促進を図らねばなりません。それにより鉄道広告のステイタスや価値の向上も実現できるものと確信しています。

もちろん、すべてが一気に改革できるわけではありませんからスタート年の今年は何を措いても先ずは以上の方向に沿って協会活動を軌道にのせること、そしてその中で統一広告掲出基準の制定に取組みたいと考えています。経済情勢はファンダメンタルズの改善とともに好調を続けており改革の仕易い環境にあります。われわれとしては業界の結束をはかり法人設立の趣旨を体し高い志を持って具体的成果をあげ大方の期待に応える所存です。

しかし、何分にも新参でありますので先輩法人の関係各位にはよろしくご指導、ご鞭撻をたまわりますようお願い申し上げご挨拶といたします。

社団法人「全国鉄道広告振興協会」の設立経緯と概要

鉄道広告業界の法人化については、１９７２年（昭和47年）の広告税問題や、１９７３年（昭和48年）のオイルショックによる電力節減策の問題が生じた際に、改めてその必要性が現実の問題として問われたことに端を発します。

当時、国鉄に限った鉄道広告団体であった「全国鉄道広告連合会（現：鉄道広告全国連盟）」が、この問題解決のため国会や関係省庁への陳情を重ねましたが、任意団体であることもあって正当な業界代表としては扱われませんでした。その後、１９７５年（昭和50年）の総会で法人化が決議され、当時の国鉄も法人化に同意しています。

私鉄を含めた動きとしては、１９８１年（昭和56年）に関東地区の交通広告関係者が一体となり、まず関東ブロックで組織を立ち上げ、更に全国的な組織へと発展させる目的で、関東交通広告協会を設立しました。その後も、法人化実現に向けた努力が行われてきましたが、実現をみないまま今日に至っています。

一方、他メディアについては、新聞、雑誌、放送メディアから屋外広告、ＰＯＰなどＳＰ媒体に至るまで、それぞれに責任ある組織（公益団体）が存在し、広告の社会的地位向上や質的向上を目指した活動を行っています。最近では、近年台頭著しいインターネット業界でも団体が結成されました。２００４年（平成16年）

こうした動きの中、一昨年後半から鉄道広告業界においても、法人設立の環境が整ったとして改めて法人化を目指す動きが活性化し、４回にわたる設立準備委員会を経て、２００５年（平成17年）10月６日に設立総会を開催、同25日には国土交通省への設立許可申請を行い、11月１日に設立の許可がおり、社団法人全国鉄道広告振興協会が発足いたしました。

社団法人　全国鉄道広告振興協会の概要

（事業開始年月日）
平成17年11月１日

（名称）
社団法人　全国鉄道広告振興協会

（事務所）
東京都渋谷区恵比寿南１-１-１
ヒューマックス恵比寿ビル８Ｆ

（設立発起人代表者）
岩﨑 雄一
(社)日本ショッピングセンター協会会長

（目的）
本会は、鉄道事業固定資産及び軌道事業固定資産に属する施設内広告等の公共的性格とその特性にかんがみ、倫理性、品位の保持、美観・風致との調和並びに列車事故、運転阻害等の防止及び鉄道利用者の安全確保等の課題に取組み、その健全、堅実な育成を図り、国民生活の向上と産業経済の発展に寄与することを目的とする。

（事業）
本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
(1) 鉄道広告の倫理性、品位の保持に関すること
(2) 鉄道広告の美観・風致との調和等広告媒体の美化に関すること
(3) 鉄道広告に関する事故防止等の調査研究及び安全諸基準等の整備と標準化の推進
(4) 鉄道広告に関する先端情報の収集、共有化
(5) 鉄道広告事業における人材の育成
(6) その他本会の目的を達成するために必要な事業

（役員）
理事40名以上50名以内
（会長、副会長及び専務理事を含む。）
監事４名以内

（会員数）
３２５社

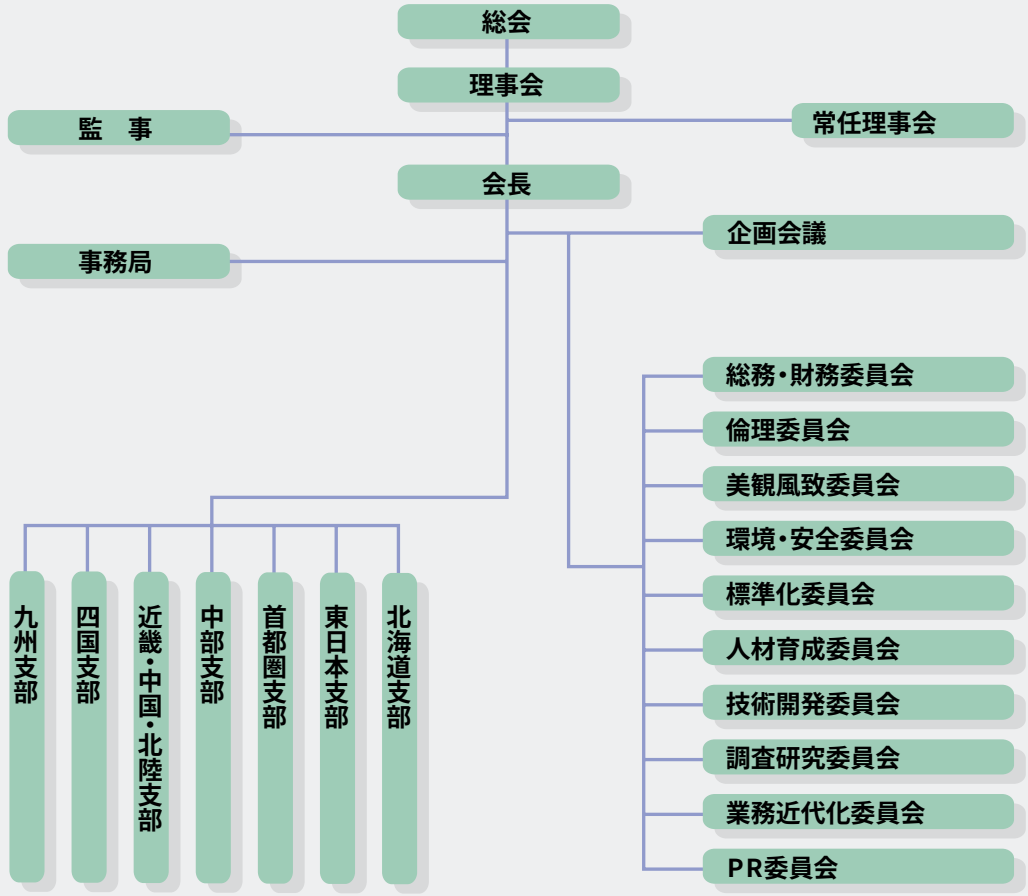
【今後のスケジュール】

2月13日(月) ＰＲ委員会
21日(火) 業務近代化委員会
環境安全委員会
22日(水) 調査研究委員会
23日(木) 総務・財務委員会
倫理委員会
27日(月) 標準化委員会
3月1日(水) 人材育成委員会
8日(水) 美観風致委員会
14日(火) 技術開発委員会
23日(木) 第２回理事会
東京ステーションホテル
6月1日(木) 第３回理事会、第２回総会、懇親会

※予定は諸事情により変更される事もあります。

組織図＆役員紹介

（社）全国鉄道広告振興協会組織図



会長： 岩﨑　雄一　社団法人 日本ショッピングセンター協会 会長

会長代行副会長： 小島　紀久雄（株）ジェイアール東日本企画 社長

副会長： 本田　勇一郎（株）ジェイアール西日本コミュニケーションズ 社長、瀧　久雄（株）NKB 社長、佐藤　裕紀（株）メディアート 社長、望月　國雄（株）春光社 会長

常任理事： 牛込　昭洋（株）メトロコマース 社長、西村　友伸（株）東急エージェンシー 執行役員 コミュニティメディア本部長、永井　秀雄（株）オリコム 会長、間宮　泰三　協立広告（株）会長、小牧　渉（株）電通 アウト・オブ・ホームメディア局長、栗原　圭一（株）ムサシノ広告社 社長、下杉　克郎（株）小田急エージェンシー 社長、清水　英明（株）近宣 社長、冨田　栄次（株）大阪オリコミ 社長、市口　鶴市　中央広告（株）会長、今村　元（株）ジェイアール東海エージェンシー 社長、山田　則夫（株）名鉄エージェンシー 社長、上永吉　耕志（株）ジェイアール九州エージェンシー 社長、千葉　律雄（株）北海道ジェイ・アール・エージェンシー 社長

理事： 松尾　健二（株）ジェイアール四国企画 社長、渡辺　文雄（株）日交西部本社 社長、鈴木　憲治（株）ジェイ・アイ・シー 社長、中野　忠昭（株）東京メディア・サービス 社長、勝見　亮助　社団法人日本雑誌協会 専務理事、宍戸　旦　社団法人日本広告審査機構 専務理事、宮田　亮平　東京藝術大学 学長、清水　公一　城西大学 教授、大津　英敏　多摩美術大学 教授、田中　里沙　宣伝会議編集長、久保田　穣　東日本旅客鉄道（株）事業創造本部資産活用部門部長、小野　栄治　北海道旅客鉄道（株）開発事業本部部長、湊　和則　西日本旅客鉄道（株）開発事業本部次長、水野　正幸　九州旅客鉄道（株）事業開発本部営業部営業部長、中村　秀文　東京急行電鉄（株）情報・コミュニケーション事業部 コミュニケーション営業部 統括部長、浅井　浩一　東京地下鉄（株）関連事業部部長、石井　誠　小田急電鉄（株）沿線事業部長、松田　義明　京浜急行電鉄（株）計画営業部長、川杉　範秋　京王電鉄（株）鉄道営業部長、横井　孝範　名古屋鉄道（株）鉄道事業本部営業部長、淺井　栄一　京阪電気鉄道（株）お客様サービス事業部部長、松田　健　近畿日本鉄道（株）事業本部営業統括部計画部長、柳　信治　西日本鉄道（株）鉄道事業本部営業部部長

専務理事： 小林　末光

監事： 神木　源二（株）交通新聞社 北海道支社長、長渡　泰三（株）日交 社長、米田　龍司（株）日本宣交社 社長、岡田　陸郎（株）アド・コクユー 社長

各支部長からの挨拶

支部は全国7つに分かれています。
1月17日の第1回総会で委嘱された各支部長を紹介します。

【北海道支部】
支部長　**千葉　律雄**（ちば　りつお）

北海道は首都圏などと比べますと代理店はかなり小規模です。お蔭様で昨年12月19日に支部の総会を開き、17社の代理店の参加をいただきました。

様々な案はあろうかと思いますが、鉄道広告の価値向上も含めまして、各社の業績向上に寄与するように精一杯やっていこうと思っておりますので、ご支援ご指導よろしくお願いいたします。

【東日本支部】
支部長　**大仁田　智**（おおにた　さとし）

私どもの東日本支部は21社の会員数でエリア的にも規模的にも広範囲にわたっております。JR東日本企画の佐藤支店長と一緒に精一杯がんばってまいりたいと思います。私事ですが、1月1日に福岡から仙台にやってきたばかりでございますので、東日本支部の皆様のご協力の上で精一杯やらせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【首都圏支部】
支部長　**小島　紀久雄**（こじま　きくお）

本協会の中でも、会員数、売上高共に大きい部分を占めている支部でございます。これから、瀧副支部長と力を合わせて共に協会の発展のために、微力ではございますが、努力をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【中部支部】
支部長　**今村　元**（いまむら　はじめ）

名古屋を中心とした中部圏は、首都圏、関西圏と比較すると鉄道の後進地域と言われてきましたが、JR、各私鉄それから公営鉄道等の鉄道輸送も最近では、少しずつ輸送量も伸び、評価も上がってきております。

このような状況を踏まえ、今後、智恵を出し合い、鉄道広告の面でも攻勢に出られるように会員みんなで力を合わせてがんばりたいと思っております。ぜひとも本部並びに各支部の皆様からのご支援ご指導をお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【近畿・中国・北陸支部】
支部長　**市口　鶴市**（いちぐち　つるいち）

念願でございました、社団法人全国鉄道広告振興協会が発足しまして、第1回総会を開催できる運びとなり、何よりの喜びと存じ上げます。私どもの近畿・北陸・中国支部は、現在正会員68社、特別会員5社、賛助会員2社、合計75社でございます。

支部長といたしまして、至らぬ事ばかりかとは存じますが、岩﨑会長のご指示を賜りながら、支部の役員、そして会員の皆様のご協力をいただきながら、本会の発展に努力していきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

【四国支部】
支部長　**松尾　健二**（まつお　けんじ）

現在、会員数は13社、極めてひとつひとつの会社も小さい四国でございますが、この協会の発展と、各社の発展に努力したいと思っております。まずは3月末までに、支部の総会を開催し、これからの活動の方針を決めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【九州支部】
支部長　**上永吉　耕志**（かみながよし　こうじ）

この度は支部長という大役をおおせつかりまして、重責に身が引き締まる思いでございます。

九州支部は西日本鉄道株式会社さん、九州旅客鉄道株式会社さんの鉄道会社とそのハウスエージェンシー、そして代理店正会員29社という構成になっておりますが、皆さんと一緒に協力しあいまして、もろもろの課題に取組み、九州から全国への気持ちで、鉄道広告を更に元気なものにしていきたいと考えております。

当業界は、時代の波を受けまして、大きな転換期に直面しているという認識でおります。

㈳全国鉄道広告振興協会の設立趣旨を十分に踏まえ、九州より、様々な会合、各委員会に積極的に参加し、この草創期の基礎固めをしっかりと行い、支部の皆様と共に元気よくがんばって行きたいと思います。

どうぞ、皆様のご支援、ご協力を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

各委員長の抱負

10の委員会を設置しました。
全国より集まっていただいたメンバーから選ばれた各委員長より今後の抱負を紹介します。

【総務・財務委員会】
委員長　**間宮　泰三**（まみや　たいぞう）

業務内容につきましては、協会の運営、及び、事業、祭事、予算管理等に関する総括的な政策の検討などでございます。2月に委員会を開きまして、それから始動していく予定でございます。

よろしくご指導のほどお願いいたします。

【倫理委員会】
委員長　**小牧　渉**（こまき　わたる）

当法人は国土交通省から設立許可を受けております。

行革の環境の中で、新しい公益法人が生まれていくという事は非常にまれな事でございますが、その背景には鉄道広告の3つの領域、まず1つめが倫理、品位の維持向上、2つ目が美観との調和、3つ目が安全対策。この3つの領域においての当協会の活動、具体的な貢献が大いに期待されている、或いは義務付けられているといっても過言ではないと思います。

当委員会の当面の仕事であります、当法人の鉄道広告倫理綱領も、こうした点もしっかり踏まえたもので作って行きたいと考えております。現在各電鉄さんでの現行の広告倫理綱領、或いは他の広告団体、新聞協会等々にもこういった団体にも倫理綱領がございまして、これらを今、整理・勉強しているところでございます。

そういったものを整理した中で、3月に第1回の倫理委員会を開催して、倫理綱領の倫理委員会案を策定しまして、3月の理事会に付議して、ご審議ご検討いただき、それが承認していただければ、それが当協会のいわば憲法のようなものになっていくわけです。それを踏まえた上でその次のステップ、そして広告掲出の基準の策定に入って行きたいと思っております。当面は綱領の策定に精一杯努力してまいりたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

【美観風致委員会】
委員長　**瀧　久雄**（たき　ひさお）

私どもの活動内容は多少分かりづらいところもあるかと思います。

交通広告の基本はその地域の多くの方、例えば通勤、通学、買い物で利用するという皆様に、強制的に見せるメディアであると同時に、楽しく情報性に富んでいる、存在そのものが親しまれているというものであります。

この協会は、鉄道事業者も参加した形での日本で唯一の団体です。世界一の鉄道立国の日本ですので、鉄道広告とは「いかにパンチのあるメディア」であるかと存在感を示す何かをやれないのかなという事がひとつあります。

それから各地域、広告収入が重要ですので、好感度、成功事例があると同時に、失敗例もありますので、その辺を徹底的に調査把握するという事も重要です。各地域における、広告デザイン、建築との融合など、成功事例を調査、吸収し、お互いにいいものを共有し、失敗例も把握するという事が当面のテーマであると思っております。その辺を中心に、叩き台を作成し、3月早々には1回、委員会を開催し、基本的なところを固めたい、と思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【環境・安全委員会】
委員長　**佐藤　裕紀**（さとう　ひろのり）

当面の活動といたしましては、まず委員各社の安全マニュアルを集めさせていただきます。そこで、例えば、看板枠の設置、板面の取替え等の鉄道の看板取替え作業について等、共通事項を取り出すとことから始めまして、例外事項などを入れて、骨格案だけでも作成できたらと思っております。また、事故事例、教育、研修方法についても、各社から教えていただけたらと考えております。

メンバーが東京、九州、名古屋、大阪と離れていますが、第1回の委員会を2月下旬に、第2回を3月下旬に開き、さらにメールなどで情報の交換を行いまして、何らかの叩き台をを造りたいと思っております。

【標準化委員会】
委員長　**永井　秀雄**（ながい　ひでお）

標準化委員会というのは範囲が非常に広うございますので、まず初めに情報収集から着手いたします。全国には百数十社の鉄道事業会社がございます。得意先も鉄道広告の重要性の認識が非常に高まっております。その中で約款、媒体名称、或いは販売方法など、様々なものについて、各社毎違いがありまして、なかなかわかりにくいという事実があります。

そういった情報を把握し、業界として標準化する事で、少しでも得意先に分かりやすくし、ひいては鉄道広告の売上増収に寄与させていただければと思っております。

また、広告業協会の交通小委員会でも、こういった名称の統一等に取組んでいるようですので、そちらとも連携をとりながら進めて行きたい、また、調査研究委員会などの調査とも関連する事柄も一部ございますので、他委員会とも連携をとりながら、この標準化委員会の作業を進めて生きたいと思っております。

何事もどうぞよろしくお願いします。

【人材育成委員会】
委員長　**牛込　昭洋**（うしごめ　あきひろ）

息の長いまた幅の広い活動になるかと思いますが、当面、セミナー、シンポジュウム、研修等につきまして、各支部並びに会員の皆様からどのような要望があるのかを取り急ぎ集約をし、整理した上で委員会において次年度以降の計画を立てていきたいと思っております。

懸賞論文、コンテスト等につきましては、他の事例等を参考に応募される方がその気になれるようなものにしていきたいと考えております。

鉄道広告業界のレベルアップの一助になるよう、一事業者では取り組みがたいテーマ等、この委員会での企画に参加することによって、会員の皆様がプラスになるような仕組みができればと思います。

【技術開発委員会】
委員長　**西村　友伸**（にしむら　とものぶ）

当委員会といたしましては、鉄道広告に関わるハード及びソフトの最先端技術、ＩＴ等の応用例の最新情報の収集と発信、新しい広告訴求技術等の研究開発とその成果の活用という事を考えております。

具体的計画ですが、鉄道、空港、商業施設などで既に実施されている情報発信のための先端技術を視察し、事故防止、美観風致、鉄道利用者サービス向上施策等の参考にするため、機関紙を利用して皆様に紹介していきたいと考えております。また視察の結果を踏まえて最先端技術の研究を進めるとともに、試験的に最先端技術を活用して、情報発信のデモンストレーション等を行ないたいと考えております。鉄道会社をはじめとする皆様のご協力をいただきながら、次世代型メディアの開発を目指して行きたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

【調査研究委員会】
委員長　**下杉　克郎**（しもすぎ　かつろう）

調査研究はその対象領域の幅が大変広いので、まず年度のテーマ並びに実行計画の設定が必要でしょう。副委員長の上永吉様のご指導並びに各委員の皆様のご協力をいただきながら、よく協議をいたしまして、2月末日ないしは3月上旬に、その実行計画に基づく、事業計画を取りまとめまして、3月後半の理事会には報告をできるように準備をいたしたいと考えております。

【業務近代化委員会】
委員長　**清水　英明**（しみず　ひであき）

近代化というのは大変抽象的で難しい委員会です。私が考えますに、交通広告の体質の近代化、業務の近代化というような問題もあるのではなかろうかと思います。

現在我々は、18世紀の産業革命をしのぐような大変化の時代の中を生きており、日々の努力を怠ると、たちまち時代に取り残されてしまうという結果が待っています。ですから、交通広告の体質とか広告に関わるさまざまな業務の近代化のために、15名のメンバーとともに一生懸命勉強してまいりたいと思っております。

具体的に申し上げますと、交通広告はそれぞれの鉄道会社におきまして様々なルールや方法について異なる面があると思います。各地域で異なる制度があると思います。そこで、15名のメンバーで各地を訪問させていただきまして、できれば、海外の例も見に行かせていただければ大変ありがたいと思っております。そのような事を含め、勉強いたしまして、さまざまな結論を出させていただきたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

【ＰＲ委員会】
委員長　**今村　元**（いまむら　はじめ）

「ＰＲ」というのは大変重要な委員会だと思っております。委員会は16名、北海道から九州までの各地区代表の方で構成し、それぞれ社内、業界において経験豊かで、各社のエースがご参集いただきましたので、大変強力なチームが出来上がったと思っております。委員会の集まりもこれから頻繁に開いていこうと思っております。活動内容についてですが、ＰＲというわけですから、Public Relations鉄道広告というものの良さ、歴史のある古い媒体ではありますが今後の発展性、媒体としての潜在的な価値、可能性といったものを、乗客でもある、市民、国民の皆様や、或いはクライアントの方々に、よりはっきりした形で分かっていただくという事が最初の勤めだと思っています。もうひとつは、こうして志を同じくして集まった会員皆様方全員のフレンドシップ、お互いに情報交換を密にする、或いは今までの各委員会でもお話がありました先端的な情報や取組みといったものを水平展開し、地域を越えたつながり、ネットワークを強化して横断的に知識の共有化を図る、ということも大変重要であると思います。

こうしたことをみんなで智恵を絞りながら取り組んでいきたいと思っております。それにつきましても、この16名だけで全てができるわけではございませんので、様々なニュース、データですとか、色々なトピックスといったものにつきましては、各支部や各委員会、そして、会員お一人お一人からホットな情報を随時、是非是非お寄せいただきまして、立派な会員間のコミュニケーションが図れるように努めてまいりたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

ＪＡＲＡＰ発刊にあたって

ＰＲ委員会、最初の活動は、この会報の発行ということになりました。これから毎月1回お届けする予定です。

全国の会員の皆さまから新鮮な情報の提供を随時お待ちしています。皆様からの情報が、社団法人全国鉄道広告振興協会全体の新しい発見、発展につながっていくと信じています。

また、ホームページも開設されますので是非アクセスして下さい。

どうぞよろしくお願いします。

各委員紹介

総務・財務委員会 委員長：間宮 泰三 協立広告（株）
副委員長：栗原 圭一（株）ムサシノ広告社
委員：飯田 純（株）京急アドエンタープライズ、 大村 義親（株）弘亜社、 石原 能郎（株）東広、 稲川 一（株）文宣、 関 学（株）星広告、 岡田 陸郎（株）アド・コクユー、 坂井 忠司（株）リード、 米田　龍司（株）日本宣交社、 佐藤 俊一郎（株）ジェイアール東日本企画、 渡辺 文雄（株）日交西部本社、 千葉 律雄（株）北海道ジェイ・アール ・エージェンシー

倫理委員会 委員長：小牧 渉（株）電通
副委員長：冨田 栄次（株）大阪オリコミ
委員：勝見 亮助（社）日本雑誌協会、 宍戸 旦（社）日本広告審査機構、 村田 譲（株）北海道ジェイ・アール・エージェンシー、 大塚 實（株）ジェイアール東日本企画、 黒川 純　東京地下鉄（株）、長谷川 富繁（株）オリコム、 西村 友伸（株）東急エージェンシー、 吉田 文成（株）NKB、 服部 敏明（株）ジェイアール東海エージェンシー、 広江 真樹（株）名鉄エージェンシー、 湊 和則　西日本旅客鉄道（株）、池本 伸一（株）大阪オリコミ、 池田 達美（株）鉄道広告、 塩 日出男　西日本広告（株）、中馬 輝彦　キング鉄道広告（株）

美観風致委員会 委員長：瀧 久雄（株）NKB
副委員長：渡辺 文雄（株）日交西部本社
委員：宮田 亮平　東京藝術大学、 大津 英敏　多摩美術大学、 中村 秀文　東京急行電鉄（株）、横井 孝範　名古屋鉄道（株）、礒部 隆志（株）ニューアド社、 小牧 渉（株）電通、 田中 誠一（株）ユーシン広告社、 望月 透（株）文宣、 八木澤 昌二（株）NKB、 柳田 芳男（株）ジェイアール東日本企画、 吉田 晟（株）メトロコマース、 柘植　康伸（株）中央廣告、 服部 敏明（株）ジェイアール東海エージェンシー、 北山 裕史（株）阪神コンテンツリンク、 田中 賢一（株）大明社大阪支店、 西﨑　誠（株）ジェイアール西日本コミュニケーションズ、 綿家 哲夫（株）近宣 大阪支社
事務局：山藤 和哉

環境・安全委員会 委員長：佐藤　裕紀（株）メディアート
副委員長：中野 忠昭（株）東京メディア・サービス
委員：水野 正幸　九州旅客鉄道（株）、伊藤 孝　大阪メディア・サービス（株）、西村 孝雄（株）ジェイアール西日本コミュニケーションズ、 片岡 伸泰（株）メディアート、 宮東 修（株）京急アドエンタープライズ、 古嶋 一朗（株）東急エージェンシー、 石崎 丈利（株）小田急エージェンシー、 飯島 早苗（株）京王エージェンシー、 広江 真樹（株）名鉄エージェンシー

標準化委員会 委員長：永井 秀雄（株）オリコム
副委員長：千葉 律雄（株）北海道ジェイ・アール・エージェンシー
委員：石井 誠　小田急電鉄（株）、菊田 眞弘（株）NKB、 吉田 勝広（株）オリコム、 成田 和雄　協立広告（株）、前川 雅夫（株）ジェイアール東日本企画、 阿久澤 俊広（株）春光社、 高畠 俊（株）電通、原田 賢一（株）オリコム 名古屋支社、 服部 敏明（株）ジェイアール東海エージェンシー、 広江 真樹（株）名鉄エージェンシー、 大仁田 智（株）近宣 仙台支社、 宮崎 嘉洋　ＨＡＣ北陸宣伝（株）、西山 一則（株）京阪エージェンシー、 山本 賢二（株）メディアート、 赤城 和寛（株）ジェイアール四国企画、 山浦 国旦（株）富士交通事業社、 中村 和夫（株）ニッコーコミュニケーションズ

人材育成委員会 委員長：牛込 昭洋（株）メトロコマース
副委員長：山田 則夫（株）名鉄エージェンシー
委員：吉原 美保子（株）ジェイアール東日本企画、 吉田 文成（株）NKB、 坂田 一広（株）ジェイアール東海エージェンシー、 吉田 晟（株）メトロコマース、 藪根 亘（株）アド南海、 辰野 順一（株）ティーエイシー、 西吉 健二（株）ジェイアール四国企画、 安藤 光雄（株）ジェイアール東日本企画仙台支店、 小野 栄治　北海道旅客鉄道（株）、 秋山 哲志（株）DNP西日本

技術開発委員会 委員長：西村 友伸（株）東急エージェンシー
副委員長：鈴木 憲治（株）ジェイ・アイ・シー
委員：飯島 早苗（株）京王エージェンシー、 澤 竜太郎（株）ニューアド社、 大橋 恒夫（株）近宣 札幌支社、 大仁田 智（株）近宣 仙台支社、 石山 忠光（株）ジェイアール東日本企画、 八木澤 昌二（株）NKB、 柘植 康伸（株）中央廣告、 山口 義弘（株）ジェイアール西日本コミュニケーションズ、 川内 哲郎（株）近宣 四国支店、荒木 敏彦（株）門宣

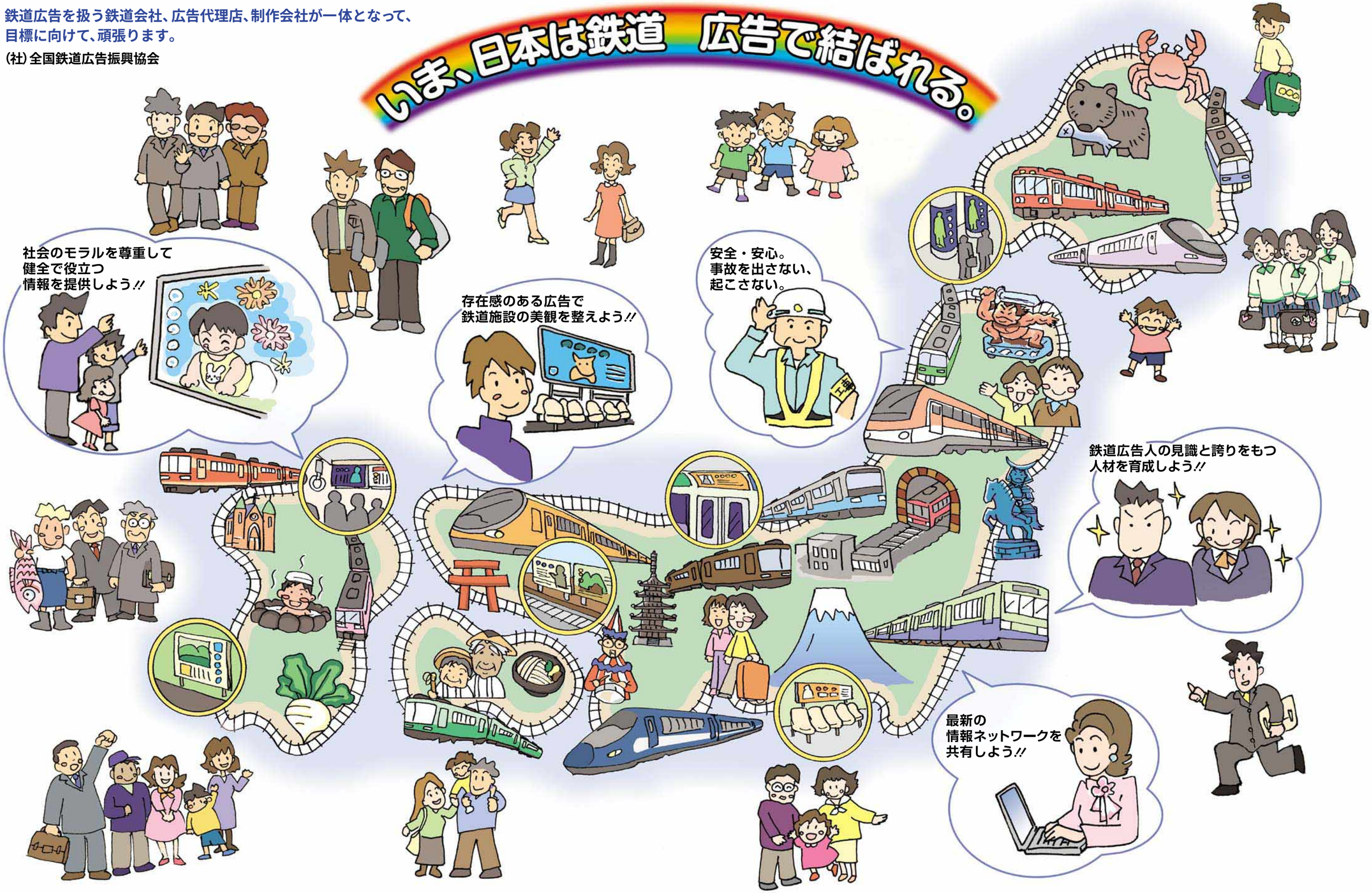
調査研究委員会 委員長：下杉 克郎（株）小田急エージェンシー
副委員長：上永吉 耕志（株）ジェイアール九州エージェンシー
委員：栗原 俊治（株）小田急エージェンシー、 大神 健二（株）ジェイアール九州エージェンシー、 松山 光昭（株）北海道ジェイ・アール・エージェンシー、 上田 哲哉（株）近宣 長野支店、 梶 弘武（株）オリコム、 古川 義夫（株）ジェイアール東日本企画、 杉原　健太（株）電通、 矢野 清人（株）博報堂DYメディアパートナーズ、佐藤 和義（株）ムサシノ広告社、 岡部 實（株）メトロコマース、 服部 敏明（株）ジェイアール東海エージェンシー、 広江 真樹（株） 名鉄エージェンシー、 瀬川 裕正（株）ジェイアール西日本コミュニケーションズ、 山中 明人（株）メディアート

業務近代化委員会 委員長：清水 英明（株）近宣
副委員長：松尾 健二（株）ジェイアール四国企画
委員：八木澤 昌二（株）NKB、 望月 敏弘（株）春光社、 堀 宏明 （株）電通、 鈴木 秀夫（株）ジェイアール東日本企画、 中橋 光 （株）大晃、 輿石 栄作（株）ジェイ・アイ・シー、 那波 俊哉（株）東急エージェンシー、 渡辺 隆一（株）近宣、 坂田 一広（株）ジェイアール東海エージェンシー、 在永 進（株）ジェイアール九州エージェンシー、 菅原 浩治（株）NKB北海道支社、 岡村 正忠（株）星光、 西﨑　誠（株）ジェイアール西日本コミュニケーションズ

PR委員会 委員長：今村 元（株）ジェイアール東海エージェンシー
副委員長：牛込 昭洋（株）メトロコマース
委員：田中 里沙（株）宣伝会議、 菊田 眞弘（株）NKB、 戸井田 哲夫（株）オリコム、 名倉 晴夫（株）近宣 名古屋支社、 武藤 虎之介 （株）広正社、 鎌田 瑞樹（株）ジェイアール四国企画、 加藤 寿一 （株）ジェイアール西日本コミュニケーションズ、 継田 繁晴（株）ジェイアール東日本企画仙台支店、 土門 信（株）春光社、 古嶋 一朗（株）東急エージェンシー、 田村 宏晴（株）日交西部本社、 水野 裕晃（株）日本広明社、 宇塚 功（株）北海道ジェイ・アール・エージェンシー、 丸山 朝夫（株）メトロコマース

鉄道広告を扱う鉄道会社、広告代理店、制作会社が一体となって、
目標に向けて、頑張ります。

(社)全国鉄道広告振興協会



盛大に第1回総会を開催！〈懇親会の席上、各界から期待の祝辞が〉

1月17日(火)、ホテルメトロポリタンエドモントにおいて261名の会員社の出席の元、第1回総会が開催され、定款細則、正副各支部長、正副各委員長が承認された。引き続き、各界より多数の来賓を招いて和やかに懇親会が開かれ会員社間の親睦が深められた。

日本の鉄道広告の発展に寄与を

国土交通省鉄道局長　**梅田　春実（うめだ　はるみ）様　祝辞**

本日の社団法人全国鉄道広告振興協会設立記念懇親会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

貴協会は鉄道広告の表現などに関しまして、鉄道広告業界の統一規範となる、倫理綱領の策定や、自主規制機関の設置等により、鉄道広告の倫理性や品位の保持を図ること等を目的として、本日、ご臨席の皆様の総意により、昨年11月に設立の運びとなりました。

これもひとえに、設立発起人の皆様をはじめとする関係各位のご熱意の賜物であり、ここに深く敬意を表しますとともに、心からお喜びを申し上げます。

さて、鉄道はわが国の公共交通機関の根幹をなすものでありますが、最近、環境問題への注目が高まっていることからも、今後、鉄道輸送が担う役割への期待は、さらに増していくものと思います。このような期待に応ずべく、少子高齢化社会の進展に対応してバリアフリー化を進めるとともに、昨年の春からは首都圏の主要路線に女性等に配慮した車両の導入が進められるなど、新たな利用者ニーズに対応した取り組みも進められているところであります。

一方で、昨年、福知山線や羽越線において重大な脱線事故が発生したことなどから、あらためて「安全は輸送サービスの根幹である」という事を強く認識させられたところであり、関係者が一丸となって安全確保に万全を期すことが重要であると考えます。

このように、鉄道業界においては、安全対策はもとより、利用者が安心して快適に利用できるよう、各種の課題に取組んでいくことが求められており、パブリックスペースとしての駅構内や車両内における広告のあり方も重要な課題となってきております。

従いまして、ご臨席の皆様方を始めとする関係方面の方々におかれましては、貴協会の公益事業を通じて、鉄道広告の倫理性や品位の向上、美観風致の維持及び広告掲出作業等の安全確保につき、真摯なお取り組みを頂きますよう期待しております。

最後になりましたが、貴協会のご発展と、会員の皆様方のより一層のご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

今後この協会が鉄道業界のみならず広く広告業界或いは日本の業界の中で発展していく事を期待しております。

社会から信頼される公共法人に

社団法人日本民営鉄道協会会長　**小谷　昌（こたに　まさる）様　祝辞**

ただ今ご紹介にあずかりました民営鉄道協会会長の小谷でございます。

ご列席の皆様方には、ただ今民営鉄道協会71社ございますけれど、大手16社を始め皆様には大変日ごろお世話になっておりまして、御席をお借りいたしまして厚く御礼申し上げる次第でございます。

今日はまた、社団法人全国鉄道広告振興協会設立記念懇親会にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。光栄に存じております。懇親会の開催にあたりまして一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

このただ今伸展している情報化社会にありましても、鉄道関係の広告については生活関連情報の伝達手段、その重要性が増しております。また、鉄道という公共的特性がございまして、特に高い倫理性と品位が求められているところでございます。また、鉄道広告は鉄道駅や町並みの美観と調和にも配慮する必要がありまして、また一方鉄道広告は駅ビル、駅中ビジネスなどと共に、我々鉄道の付加価値創造の付帯事業として歴史的にもまた重要な地位を占めて参っております。このように鉄道広告につきましては、今後たくさんの課題も様々あるように聞いておりますが、これらに適切に本協会が取組まれ、会員各社、社会から信頼される公共法人になられる事を願っております。

結びに当たりまして、当協会の今後のご活躍と本日ご列席の皆様のご健勝を祈念いたしまして私の挨拶と代えさせていただきます。本日は誠におめでとうございました。

鉄道広告はアウトオブホームメディアのスター

社団法人日本広告主協会理事長　**西室　泰三（にしむろ　たいぞう）様　祝辞**

ご紹介をいただきました西室でございます。

本日は社団法人全国鉄道広告振興協会設立本当に心からお祝い申し上げたいと思います。

おめでとうございます。

私ども日本広告主協会は広告主を代表して設立された唯一の団体という事でございます。

つまり広告主という立場から広告がこれから先の社会、世の中にあったものになっていくかという事をプロモートする、そのためには、私どもといたしましては広告というものが社会にとって有益かつ有効なものであるということ、そしてそれは高い倫理性に裏づけされなければいけないと常々思っております。

この鉄道広告という領域そのものは全世界的に見ますと、広告が色々変わっている中で非常に重要なカテゴリーといわれていますのは、今までの広告というのは主として家庭にいる人々に対する広告というのは、新聞を通じそして或いはテレビを通じコミュニケーションを取れるという形でございましたけれど、ご承知のとおり若者の新聞離れ、テレビ離れ、或いはCMスキップとそういう風な状況に直面もいたしておりますし、また幢々として進んでいるデジタル化というのが広告の姿を大きく変えているという現実にも直面いたしております。

その中で世界の大きな潮流アウトオブホームメディアとしての広告というところに注目が集まっていることでございます。この鉄道広告というカテゴリーそのものはまさにアウトオブホームメディアのスターであるという風に申し上げてもよろしいかと思います。今までの中吊りですとか、駅広告だけではなくて、広い範囲の鉄道そのものの両様が変わってきているのと同様に例えば、駅中の発展ですとかそれと同様にラッピング広告、電車一台が全て広告メディアに変身するという先進的な試みももう既に相当前からおやりになっている、そういう新しいカテゴリーを持っておられるこの業界が、社団法人としてしっかりとした組織をお持ちになったということは私どもにとっては誠に心強いことでございます。

私ども広告主といたしましては広告というメディアを通じて若い方々だけではなく、全ての消費者、或いは利用者の方々に、それぞれの広告主のメッセージをしっかりとお届けしたい、そしてそのメッセージというものは心に残るものであって欲しい、そして、それを思い出していただくという事が、何かそれぞれの方々の将来に心の中に大きな宝物として残るそのくらいのものまで考えなければいけない、という風に思っております。

その中で特に今年強調したいと思っておりますのはまさにこの振興協会の設立趣旨のひとつであります、倫理性の確保でございます。私どもはやはり広告というものを通じてそれは倫理にしっかりと裏打ちをされたものでなければいけないという風にそういう志と、これから先の広告というものは、それがなければ生きていけないくらいの覚悟を持っております。

本日こういうめでたいお祝いの席にお招きいただきました、私どもといたしましてはまたお一人仲間が増えたという事で、大変心強い思いをいたしております。

これから先も、皆様方、鉄道広告関係のますますのご発展をお祈りいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきたいと思います。

本日はおめでとうございます。

鉄道広告の地位をさらに堅固なものに

社団法人日本広告業協会理事長　**俣木（またき）盾夫（たてお）様　祝辞**

（専務理事　**大畠（おおはた）邦彦（くにひこ）様　代読**）

本日はご招待をいただき誠にありがとうございます。

是非お伺いして一言お祝いを申し上げたいと存じておりましたが、所用のためそれがかないません。

せっかくのご厚志にお応えできない事をお詫びいたします。

社団法人全国鉄道広告振興協会の設立、誠におめでとうございます。社団法人日本広告業協会の理事長としての一言お祝いのご挨拶を申し上げます。

鉄道広告業界の全国組織設立については、このたびその念願の夢が実現されました事は、ご関係各位のご尽力の賜物と深く敬意を表するとともに、改めて心からお慶びを申し上げる次第です。

鉄道広告は、歴史的には明治時代から存在する伝統ある広告メディアでありますが、ここ数年、さまざまな新しい広告スペースやその活用法の開発も進み、広告業界における主要なメディアとしてその重要性を増してきております。

広告主様におかれましても、広告効果の効率を重視されておられますが、昨今では交通広告が「キャンペーン」の中心的なメディアとして利用されるようになってまいりました。

これは交通広告がその媒体価値を向上させ、確立されてきた事の証左ではないかと考えております。

私は、今般の全国法人設立は、文字通り鉄道広告業界の地位を更に堅固なものにされ、多くの広告主様からの信頼をますます確保され、一層の発展に繋がる大きな一歩であると確信しております。

日本広告業協会では、さまざまなテーマで多くの委員会活動をしておりますが、その中のメディア委員会に所属いたしまして、交通広告小委員会がございます。本日ご出席の貴協会の皆さまの中にもこの委員、或いは委員を派遣していただいている会社があるわけでございますが、日本広告業協会も鉄道広告の振興に関し、この交通広告小委員会をはじめとして、精一杯ご協力させていただきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申しあげます。

重ねて本日は社団法人全国鉄道広告振興協会の設立、誠におめでとうございます。

大変不行き届きな形ではございますが、お祝いの言葉とさせていただきます。

法人化の産みの苦しみと産みの喜び！

国土交通省のあたたかいご指導・業界関係者の熱意

── 語る小林末光（こばやしすえみつ）専務理事

平成17年11月1日、鉄道広告業界長年の夢であった社団法人の設立がついに現実のものとなりました。思い起こせば、日本がまだ高度成長期にあった昭和47年、広告税課税問題が国会で論議され、その後のオイルショックにともない、翌48年に電力節減策の一環として駅サインボードの消灯問題が生じた時に、業界として責任ある団体が不在であったため、正当な声として扱ってもらえなかったことに端を発していますので、実に30年余りの年月を経ての快挙であったと思っております。

その間、鉄道広告は様々な変遷を遂げてまいりました。生活様式の多様化や情報入手の選択肢の拡大にともなって、広告媒体としてのマス４媒体のパワーバランスにも変化が生じてきました。広告主がより訴求効果の高い媒体を模索する中で、外出中の消費者を幅広く捉えることができる屋外広告が注目され、出稿が増えてきたのです。なかでも視認性が強く、強制的に目に入ってくる鉄道広告の評価は高く、広告主のキャンペーンの中にも積極的に取り入れられるメディアとして育ってまいりました。その反面、公共交通機関の中での高い広告効果がもたらす社会的責任にも焦点があたるようになり、倫理性、美観との調和、作業における安全確保など、公益性についても最大限の配慮をすることが求められるようになったのです。

こうした背景を受けて、他の媒体がそれぞれ責任ある業界団体を持つ中で、改めて鉄道広告の業界でも社団法人の設立の声が高まりました。幸いなことに国土交通省のご理解も賜り、また、法人設立の求心力となる岩﨑雄一氏を鉄道広告業界に迎えたこともあり、平成16年秋に壮大な夢の実現のためのプロジェクトが再び動き出したのです。

それから1年間はまさに激動の1年となりました。一昨年秋から冬にかけて、関東交通広告協会、鉄道広告全国連盟はじめ多くの業界団体の総会に法人化の推進が諮られ、賛同を受けると、今度は大阪、九州、北海道など、各地区への説明のための行脚が続きました。そして昨年4月18日、ようやく第1回全国組織設立発起人会が発足したのです。同発起人会では、岩﨑雄一氏の会長就任を全会一致で承認するとともに、設立趣意書、定款、機構図、事業計画等の骨子を固め、更に新法人名称、組織（支部）及び事業計画の具体的内容、会員構成及び会費について検討を行う分科会が発足しました。

その後、5月24日には第2回発起人会が、6月20日には第3回発起人会が開催され、国土交通省からのご指導も踏まえて、今回の法人の事業の柱となる「倫理性の保持」「美観との調和」「事故防止対策」の3項目が採択されるに至りました。また、会費についても一律3万円の入会金とあわせて、鉄道広告売上高に応じた8段階の会費区分が承認されました。国土交通省からも申請窓口として鉄道局業務課を紹介していただき、実務者レベルでの打ち合わせがスタートすることになりました。

ところが、これでスムーズに行くかと思いきや、慣れない申請作業ということもあって、提出書類がことごとく国土交通省からの指導を受け、連日連夜に及ぶ資料修正作業も同時にスタートすることとなりました。国土交通省との打ち合わせが終わってみれば終電という日もしばしばで、省の業務課専門官の方も、私たち設立事務のスタッフも、ぐったりするような、まさに“暑い夏”が続くことになるのです。しかし、専門官の細心に渡るアドバイスと、会長はじめ業界関係者の熱意に支えられ、8月26日の第4回発起人会、9月から10月初にかけての入会慫慂活動を経て、また、9月5日設立事務局を正式開設し、不退転の覚悟で、どうにかこうにか10月6日の設立総会開催に至ることができました。満場一致の設立承認を受けて、後はいよいよ国土交通省への正式申請を残すのみです。

しかし、トラブルは次から次へと発生するものです。官房審査の段階で再び書類の不備が指摘され、理事就任依頼や理事名簿の作成で、多くの理事の方々に無礼なお願いを再三することになってしまいました。今から思い起こしても生きた心地もしない2週間だったと冷や汗が出るのを覚えます。

こうした紆余曲折を経て、10月25日に国土交通省への設立許可申請が終了、晴れて11月1日に無事梅田鉄道局長より設立許可書をいただくことができました。そして9日には登記申請が済み、ここに“社団法人全国鉄道広告振興協会”が名実ともに設立したのです。この夏から秋にかけての怒涛の日々の中、実務に慣れないスタッフが時間に追われて事務作業をしたために、役員、会員の皆様には不愉快な思いをさせてしまった部分も多々あったかと反省しております。しかし、こうして1年間を振り返ってみますと、今は産みの苦しみよりも、産みの喜びのほうがはるかに大きく感じます。30年の難産の果て、やっと産声を上げた組織ですが、皆様の期待に応えるべく、鉄道広告の今後益々の発展と地位向上を目指して頑張っていこうとの清新な思いに駆られております。今後も全国鉄道広告振興協会を、皆様のご協力、ご指導、ご鞭撻をもって育てていきたいと思いますので、どうか今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

●次号Vol.2は3月20日発行予定です。お楽しみに。